全カリ Newsletter No. 60
2025. 7.25
立教大学全学共通
カリキュラム運営センター

全学共通カリキュラム運営センター 新メンバー紹介

全カリニュースレター No.６０では、２０２５年度に新たに全カリ運営センター執行部ならびにメンバー、言語教育研究室主任となられた先生方をご紹介します。
また、本号では全学共通科目の魅力に迫る、教員×学生の座談会を掲載しています。

二度目の全学共通カリキュラム運営センター部長就任にあたって

全学共通カリキュラム運営センター部長
井川 充雄（社会学部教授）

私は、２０１９年４月から２０２３年３月までの４年間、全学共通カリキュラム運営センター部長（全カリ部長）を務めさせて頂きました。この間、言語系科目におけるカリキュラム改革、総合系科目におけるＦ科目（外国語で学ぶ総合系科目）の増設をはじめとするさまざまな課題に取り組みましたが、折悪しく新型コロナウイルスのまん延という事態に直面し、全面的なオンライン授業への移行とそこからの対面授業への復帰という差し迫った任務に追われました。それでも、２０２３年３月に後任者に全カリ部長の引き継ぎをした際には、自分なりにやり終えたという気持ちをもっていました。それが２年経って、再び、全カリ部長になろうとは夢にも思っていませんでした。

今回、あえて二度目となる全カリ部長をお引き受けしたのには、立教大学の教育への思いがあります。立教大学では、「専門性に立つ教養人」を育成することを学士課程教育の理念として掲げ、専門科目と全学共通科目をバランスよく学び、さらには課外活動なども含めて学生の成長を促すカリキュラムとなっています（RIKKYO Learning Style）。このうち、文系・理系といった既存の学問分野の枠組みにとらわれず、多様な知の世界を横断的に学ぶために設置されているのが全学共通科目（全カリ）です。

ただ、実際には、学生は、なるべく低学年のうちに全カリの単位を取得し、あとは専門に専念したいと思いがちでしょう。しかし、英語を始めとする既修言語の学修は継続することが重要であるし、専門を学ぶ中で新たな言語の学修の必要性に気付くこともあるでしょう。また、ある程度専門科目を学んだ後になってから、学際的な総合系科目を学ぶことで、専門を批判的、相対的に捉え直すこともできるでしょう。そうしたことから、高学年次の教養科目の履修を促すための魅力的な科目の設置や仕組み作りに取り組んでまいります。

教員にとっても、全学共通科目の担当は負担だと思う教員は、残念ながら少なくないのが実情です。ただ、自分の専門に根ざしつつ、学際的な視点からそれを全カリで講義することを通して、ご自身の研究成果を振り返り、そこから得られた新たな視点を研究に活かしていくという、教育と研究の往還ができれば理想的です。

学生にとっても教員にとっても、魅力的で、知的な意味で「楽しい」全カリとなるよう、微力を尽くしたいと考えています。ぜひ、みなさまのご協力とご鞭撻をお願いいたします。

言語系科目構想・運営チームリーダー　中国語教育研究室主任
森平 崇文（外国語教育研究センター教授）

2025年４月より言語系科目構想・運営チームリーダーを拝命しました。今年度は2020年度の本学着任以来務めております中国語教育研究室主任も兼務します。本学で開講されている言語系科目は英語から諸言語、さらに日本語とあり、その履修者数、教学方法、直面する課題等が実に多様です。中国語教育研究室主任として一言語を運営するのと同時に、各言語の個別の状況に絶えず気を配ること、また本学の言語教育全体と中国語教育研究室の利害が一致しない場合、前者の利害を優先する判断ができるかが個人的な当座の課題となります。

この度辞令をいただいて役職名が「構想・運営チームリーダー」であることを再認識しました。日々発生する諸問題への対応、言語教育研究室間や関連部局との調整、定期的に開催されるミーティングの進行といった「運営」の面がチームリーダーの任務とばかり意識していましたが、それと並行して本学の言語系科目全体の目指す方向や全カリのあり方を検討する「構想」までも含まれており、その職責の重大さを痛感しています。

言語系科目については、すでに言語A・Bともに新カリキュラムがスタートしており、新カリキュラムの着実な展開と、完成年度に向けた検証がとりあえずの課題となります。初期から自らが関わった言語Bの新カリキュラムには格別な思い入れがありますが、全学共通教育全体の方針や履修者である学生の視点に立ち、様々な意見に耳を傾け、最善なものに近づけるよう検証を続けていきます。

一つの言語を深く学ぶのではなく、複数の言語の初歩的なことを少しずつ学ぶことで得られる識見というものは確実にあります。そしてその識見が深く学んだ言語の理解にも有用なことがあります。チームリーダーの職を全うすることで自らが専門とする言語や言語教育に対する理解にもよい刺激が得られることを期待しています。

総合系科目構想・運営チームリーダー
河村 賢治（法学部教授）

「（これだけは笑わないで聞いて欲しいのだが）たとえば知性というものは、すごく自由でしなやかで、どこまでもどこまでものびやかに豊かに広がっていくもので、そしてとんだりはねたりふざけたり突進したり立ちどまったり、でも結局はなにか大きな大きなやさしさみたいなもの、そしてそのやさしさを支える限りない強さみたいなものを目指していくものじゃないか」「そして、それと同時にぼくがしみじみと感じたのは、知性というものは、ただ自分だけではなく他の人たちをも自由にのびやかに豊かにするものだというようなことだった」（庄司薫『赤頭巾ちゃん気をつけて』新潮文庫）。

これは、長有紀枝先生（本学社会デザイン研究科教授）から、教えていただいた文章です。それ以来、私もこの文章を好きになりました。

私は、商法・会社法・金融商品取引法・資金決済法などの研究者として、関連する法学部科目を担当しています。コーディネーターとして「法学特講（子ども法－理論と実践）」という科目にも関与しています。また、全学共通科目としては「SDGs×AI×経済×法」、立教サービスラーニング科目としては「カーボンニュートラル人材育成講座」を担当しています。様々な現場で課題に向き合っている方々のお力をお借りしながら、学問の奥深さ・大切さ・楽しさを伝えることができればという思いで授業を運営しています。

その意味で、冒頭で引用した文章は、私の授業を受ける受講生に感じてもらいたいことと相通ずるものがあるように思うのです。もっとも、実際に自分の授業でそれができているのかと問われると、まだまだ改善しなければならない点があるというのが正直なところです。

2025年４月より、総合系科目構想・運営チームリーダーになりました。自分のことだけでなく、多くの先生方や職員の皆さんなどと協力して、本学の全学共通科目を一層盛り上げていければと考えています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

総合系科目構想・運営チームメンバー（人文学系）
四日市 康博（文学部教授）

今年度より、全カリ総合系科目構想・運営チームのメンバーの一員（人文学系）として参加させていただくこととなりました四日市康博と申します。所属は文学部史学科です。2017年に本学に着任してから今年度で八年目となりますが、チームメンバーとして全カリの運営に関わるのは今回が初めてです。どうぞよろしくお願いいたします。これまで、立教ゼミナールや多彩な学び（歴史への扉）など全カリの授業を担当したことは二度ほどありましたが、いずれも何とか授業をこなしていくだけで精一杯で、とてもカリキュラム全体を考慮して授業を進めるような発想には至りませんでした。しかしながら、いざチームメンバーという運営側の一員としてカリキュラム全体を眺めてみると、改めて歴史学とは何か、人文学とは何か、そして、その教育とはどうあるべきかという問題を正面から問い直さなければならないのではないかという思いに至らざるを得ません。簡単なようで簡単ではない問題ですが、メンバーとしての活動を通じて再考してゆきたいと思います。

総合系科目構想・運営チームメンバー（自然科学系）
田口 真（理学部教授）

総合系科目構想・運営チームメンバーとなりました理学部物理学科の田口真と申します。私は地球や惑星の大気の物理を専門として研究しています。2008年に立教大学着任以来、全学共通科目では「南極から見る地球環境」「宇宙の科学」「自然科学の探究」「立教ゼミナール５」の講義を担当してきました。これらの科目では高校での理科と数学の知識を前提とせずに理解できる内容となるように努めました。「立教ゼミナール」では「科学とニセ科学の功罪」というテーマを設定し、様々な学部の履修者がグループワークで科学技術の産物や非科学の事柄についてメリットとデメリットを議論しました。自分とは異なるバックグラウンドを持つ履修者の考え方に私自身も啓発された講義でした。学生が広い視野を持ち、柔軟な考え方で事象に対処できる人材に育つために総合系科目の果たす役割は専門科目と同等に重要だと考えています。今後、総合系科目の充実に微力を尽くしていきたいと思います。

総合系科目構想・運営チームメンバー（社会科学系）
湊 照宏（経済学部教授）

この度、総合系科目構想・運営チームメンバーとして参加させていただくことになりました経済学部の湊照宏です。経済学部の授業ではアジア経済史などを担当しています。全カリ総合系科目とは、立教ゼミナールやコラボレーション科目の担当で接点があります。他学部学生との交流は大変刺激的で、前向きに担当することができました。とはいえ、全学的なカリキュラム運営はこの度が初めてであり、未だ私自身が認識していない問題や課題もあるのだろうと予想しています。基本的には、各学部に所属する学生がそれぞれの専門性を高めていくと同時に、非専門分野の重要性も認識し得る教養を身に付けることができるカリキュラム運営を心掛けてまいります。そのためには、まず私自身が、非専門分野に対する関心を高めていく努力が必要だと考えています。私自身も教養を高めるべく、総合系科目構想・運営チームメンバーとして前向きに活動していく所存です。

総合系科目構想・運営チームメンバー（社会科学系）
大山 載吉（現代心理学部教授）

今年度から、総合系科目構想・運営チームメンバーを拝命しました、現代心理学部映像身体学科の大山載吉です。2017年度に立教大学に着任して以来、学部では、「知覚」、「身体」、「記憶」、「時間」、「映像」などをテーマにして、できるだけ哲学/芸術/科学の知見が絡み合うような内容の授業を行っています。また、全学共通科目としては、2020年度に、「身体と空間」という観点から「モダニズム建築」をテーマにした「立教ゼミナール３」を、2022年度には「記憶」という観点から「意識と行為」をテーマにした「現代心理学からの学び」を担当しました。様々な学部の学生が多様な関心をもって履修する全学の授業は私にとって大変刺激的でした。学生たちにとって実り豊かな授業を提供するためには、全学共通カリキュラム運営センターの先生方や事務の方々のご尽力と、全学部で全カリを支え運営していくという立教大学の理念によるところが大きいのだろうと実感したことをよく覚えています。これからチームメンバーとして、少しでも全カリのさらなる充実と発展に貢献できれば嬉しく思います。

言語系科目構想・運営チーム　英語教育研究室主任
三島 雅一（外国語教育研究センター准教授）

このたび、英語教育研究室の主任を拝命いたしました。着任以来、目まぐるしい日々を過ごしておりますが、多くの方々に支えられ、責任の重さとともにやりがいを感じております。

全学共通科目言語系科目における英語科目は、実に約２万人の学生に提供されており、年間に展開される授業コマ数は1500コマ以上にのぼります。この大規模な英語科目は、常勤・兼任の先生方を含めた200名以上の英語教育の専門家によって支えられています。

これほどの規模のプログラムを安定的かつ高い質をもって運営していくことは容易ではありません。授業を担う教員のみならず、全学共通教育事務室や教務事務センターをはじめとする関係部署の皆様が一体となり、立教大学の英語教育の実現に尽力されています。

主任として業務にあたる中で、このような教職協働の姿勢に触れ、大きな感動と深い感謝の念を抱いております。それぞれの立場で一意専心に職務を果たしておられる皆様のご尽力こそが、「英語の立教」を支える原動力であると確信しております。

今後もこの強固な協働体制のもと、立教大学の英語教育がさらに発展・深化していくことを願いつつ、微力ながら尽力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

言語系科目構想・運営チーム　フランス語教育研究室主任
河野 美奈子（外国語教育研究センター准教授）

2025年度よりフランス語教育研究室主任に就任いたしました、河野美奈子と申します。専門は20世紀フランス文学ですが、近年はカナダ･ケベック州の先住民文学にも関心を広げています。私自身も立教の卒業生で、多様な研究を受け入れてくれる環境に魅力を感じ、立教大学大学院文学研究科フランス文学専攻前期課程に進学しました。立教でまず感じたのは、様々な学問的関心を受け入れるリベラルアーツ教育に基づく「ふところの深さ」です。その深さに支えられ博士論文を執筆することができました。それは全カリの外国語教育にも共通しています。2024年度から始まった言語Bの新カリキュラムでは、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の４技能をしっかりと学べる必修授業に加え、検定対策や文化、会話など多様な授業が展開され、学生の関心に応じた学びが可能です。実用フランス語技能検定試験説明会やシャンソン大会などの活動も行い、学生が日常的にフランス語に触れられる環境づくりを進めています。これからも「後輩たち」の学びを支えられるよう尽力してまいります。

特　集

全学共通科目を通じた座談会 ～全学共通科目の魅力に迫る～

日時：2025 年 6 月 12 日（木）19 時～ 21 時
オンラインにて

ファシリテーター：河村 賢治（法学部教授）

全学共通科目の魅力や課題などを学生から直接聞いてみたい、というのが本企画の出発点です。今回は私自身が担当している「SDGs×AI×経済×法」（企画提案型コラボレーション科目* の一つ）を受講した学生から話を聞いてみることにしました。

参加者：
安西 杏美（グローバル・リベラルアーツ・プログラム 4 年）履修年度：2025 年度
西野 裕代（立教セカンドステージ大学* 専攻科 2025 年修了）履修年度：2024 年度
新保 諒眞（文学部史学科日本史学専修 3 年）履修年度：2024 年度

河村　お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。最初に自己紹介をお願いします。
新保　立教大学文学部史学科日本史学専修 3 年の新保諒眞と申します。「SDGs×AI×経済×法」は、昨年度履修していました。ゼミでは日本現代史を専攻していますが、知的好奇心が高く、興味のあることに、とことん追究していくことが大好きです。よろしくお願いいたします。
西野　立教セカンドステージ大学に 2 年間通い、2025年 3 月に修了した西野裕代と申します。よろしくお願いします。普段は、インターネット関係の仕事を行いながら、メインはユネスコの活動をしています。よろしくお願いいたします。
安西　安西杏美と申します。GLAPという、全ての授業を英語で行うコースで、ビジネスを専攻しています。音楽活動をする中で、バンドのメンバー探しがすごく難しいと思ったことから、起業して、ミュージシャン向けのマッチングアプリを開発しているところです。よろしくお願いします。

1.「SDGs×AI×経済×法」について

「SDGs×AI×経済×法」を履修した理由

河村　では早速、本題に入っていきましょう。最初は「当該科目を履修した理由」です。
新保　私がこの科目を履修した理由は、もともと環境問題やSDGsに強い興味や関心があり、本科目のシラバスを見て、SDGsの現場の最先端で働いているゲストスピーカーのお話を聞けることが興味深いと感じたからです。
西野　私は、立教セカンドステージ大学で阿部治先生と河村先生の授業を受けたことがあり、授業内容に関心を持っていたのがきっかけでした。また、「SDGs×AI×経済×法」のシラバスを見たところ、毎回、第一線で活躍している方がリアルなお話をしてくださるというので、なんだか期待できそうだと思いました。
安西　私も「SDGs×AI×経済×法」のシラバスを見たところ、どれもこの先大事になるトピックだと感じました。しかも、毎回異なるゲストスピーカーであり、熱意のある方が来てくれる点に興味を持ちました。

「SDGs×AI×経済×法」の魅力とは？

河村　「SDGs×AI×経済×法」の魅力や心に残っている授業回についてお話しいただけますか。
西野　とにかく社会の第一線の動向を知ることができるところが、私にとっては最大の魅力でした。それと、学生へのメッセージが非常に響きました。例えば、国際社会で日本のポジションが低いというお話の中で、「ルール作りをする側に回りなさい」とゲストスピーカーの方がおっしゃっていました。私の若い頃は聞いたことがありませんでしたから、そのようなメッセージに衝撃を受けました。また、ゲストの方が経歴を話してくださるのも、一人の人間の生き様のようなものが見えて、人生の選択肢の大きなヒントを示してくれていると感じました。
河村　最初におっしゃっていただいた、ルールメイクやソーシャルデザインの視点は、この科目でとても大切にしているところ

＊コラボレーション科目とは
コラボレーション科目とは、専門分野の異なる複数の教員が協力し、特定の主題に個々の学問の枠を超えたさまざまな角度からアプローチし、学生を巻き込みながら互いに議論を戦わせることで、知的刺激を与えあう場をつくり出す科目のことを指します。
＊立教セカンドステージ大学とは
立教セカンドステージ大学（RSSC）は、2008年 4 月に立教大学が50歳以上の方を対象に創設した学びの「場」です。人文学的教養の修得を基礎とし、「学び直し」「再チャレンジ」「異世代共学」を目的としています。

です。「今の社会はこうなっています」で終わらせず、「どういう社会にしていきたいのだろう」「そのために何ができるのだろう」と考え、自分たちもまた未来を創る一人であることを自覚する。自身のキャリアを踏まえつつ、そうした話をしてくださる方にゲストスピーカーをお願いしていますので、その点に言及してくださりうれしいです。

また、若い方だけではなく、立教セカンドステージ大学の方も含め、何歳であれ「こういう社会にしたい」という思いで協働していければと願っています。それが、異世代共学への私の思いでもあります。

安西　多くの講義系科目では、「今、こういう現状があるよね。だから解決しなければいけないよね」と突き放される感じがありますけど、この授業の先生方は、「これからこういう状態にしてほしい」「われわれはこういうアクションを起こすべきだ」というような明確な意思が伝わってくるので、とても分かりやすいです。例を挙げると、環境人間デザインなら「世界はバラバラではなく一つの星として見て大事にするべき」だと、考えが明確に伝わってきます。

中でも一番面白いと思ったのは、教育と学校についての授業回で、「10%の生徒しか物理や生物を大事だと思っていない」「自分が校長だったら、どんな学校にする？」などの話がありました。これからの教育は、受け身でひたすら覚えるというより、学生が自発的に行動して論理的思考力を鍛えることが重要だと思っているので、すごく共感できましたし、今後のあるべき姿をそのまま語ってもらえたことが印象的でした。

河村　今挙げてくださったのは、「ソーシャルデザインの視点を持ち、教育のあり方を考えよう」という回で登壇された、上田壮一先生（一般社団法人Think the Earth理事）と、山藤旅聞先生（新渡戸文化中学校・高等学校副校長）のお話ですね。山藤先生も立教大学ご出身で、「新しい教育のあり方　スタディツアー　地域と生徒の未来創造の旅」で、2024年グッドデザイン金賞を受賞されました。教育という仕組みのデザインでグッドデザイン賞を受賞されたのは、本当に素晴らしいと思います。

新保　魅力は二点あると思っています。一点目は、他の方と重なってしまうのですが、ゲストスピーカーのお話です。今の時代の最前線の内容で、とても視野が広がるものでした。二点目は、学んだことをそのままにするのではなく、ディスカッションなどを通してアウトプットする機会があったのも良かったです。

河村　自分の考えを表現し、対話を通じて相互理解や思考を深めていくプロセスは重要ですよね。ありがとうございます。

「SDGs×AI×経済×法」の異世代共学について

河村　続いて、「異世代共学」について伺います。この科目は、他の全学共通科目よりも、立教セカンドステージ大学の学生が多めに受講できる仕組みになっています。自分とは異なる世代と一緒に学ぶことについての感想などを教えてください。

安西　異世代というと、自分の祖父・祖母しか周りにいなかったので、大学で違う世代の方と話す機会があるのは、とても貴重なことですし、ディスカッションできるのが楽しいです。９回目の授業で、男女のバイアスの話がありましたよね。それも印象的でした。あとは、デジタルデバイドや、会社の雰囲気・風通しが今のほうがより良くなっているというお話も印象に残っています。

新保　他の全学共通科目では、異世代共学の機会がなかなかないので、すごく貴重な経験ができるというのが第一印象です。安西さんのお話と少し重なりますが、環境問題や教育、AIに関しては、やはりジェネレーションギャップが起きやすいのかなと思っています。

環境問題でいえば、「今は地球温暖化の問題があるけれど、昔はもっと過ごしやすかったんだよ」と、昔のことを教えてもらい、教育であれば、今は６割ぐらいの人が大学に進学するようになっていると思うのですが、昔はそれが当たり前ではなかったそうで、「今の世代が羨ましい」という話で盛り上がりました。AIの観点では、「今の若い世代はAI使いこなせていいな」など、同世代では感じないような話をいろいろ聞けるのが、とても貴重で、面白いところだと思っています。

河村　ある意味、自分にとっては父や母、場合によってはおじいちゃん・おばあちゃん世代の方と、突然グループを作り、「このテーマについて話し合ってください」と投げられるわけです。「本当にこんなことを言ってしまっていいのかな？」など、抵抗や違和感はありませんでしたか？ その辺りは意識せず、スムーズに話せましたか？

新保　抵抗はなかったですね。むしろ、立教セカンドステージ大学の方から、「みんなの意見を聞かせて」という雰囲気を作ってくださったので話しやすかったです。

河村　話を引き出してくれたわけですね。皆さんも感じたと思いますが、立教セカンドステージ大学の学生はとても熱心に授業を受けてくださっています。ある先生が、その姿勢を学部生に見せるだけでも社会貢献だ、という趣旨のことを言っておられたのを思い出しました。

西野　確かに、受講姿勢は違いましたね。教室の前の方は、立教セカンドステージ大学の方ばかりで、それに加えて、前のめりで意見を言える数名の学部生でした。

それと、お二人とも立教セカンドステージ大学の学生に対する良い印象を話してくださいましたけれど、実際は課題点もあると思います。それなりの地位や人生経験を積んできているセカンドステージ生は、どうしても若者に対して良かれと思って「教えてあげる」とばかりに語ってしまう傾向が見られます。

河村　私が立教セカンドステージ大学の学長補佐を担当していた時は、１年目の学生に向けた「学問の世界A」という必修授業の中で、異世代共学において気を付けていただきたい点もお話ししていました。例えば、自分の話ばかりするのではなく、なるべく学部生の話を聞き、学部生の声を引き出すようにしてください、と伝えていました。

SDGs × AI ×経済×法の授業風景

西野　最近の研究で、60代･70代の方が若い頃は、縦割りの社会で意見を言いにくい時代だったため、定年後にそれが吹き出し、話し出すというものがありました。全学共通科目は、学部生から教えてもらうチャンスだと捉えると、さらに多くのことが学べ、結果的に相乗効果が生まれると実感しています。
河村　私の思いとしては、目の前にいる人の声だけでなく、その先にいる、見たこともないけれど、どこかで苦しんでいる子どもの声や、すでに亡くなって声を上げることができない人の声、あるいは、これから生まれてくる子どもたちの声も含め、しっかり聞くことができる力や想像力を持ってもらいたい。授業での講義やグループディスカッションなどを通して、そのような力を養ってもらいたいと思っています。

「SDGs×AI×経済×法」を通しての授業外での活動

河村　次に、この科目を通して、授業外で活動したことがあれば教えてください。
新保　私は「日本の防波堤・対馬が抱える課題と地域づくりの取り組みを知り、自分に何ができるか考えよう」という授業回が一番印象に残っていて、そこで聞いた、対馬市による「SDGs実践塾」に興味を持ち、実際に参加してきました。
　概要を簡単に説明すると、対馬は人口が減っている状態でありながら、動植物や歴史・文化が混在している特殊な離島です。社会課題の先進地でもあり、この部分が授業で学んだ内容とフィットしていたと思います。人口減少･経済問題、海のごみ問題、環境問題、生物多様性の破壊、産業への大きな打撃という五つが密接に関わっているところが、他地域ではなかなか見られない対馬の特徴だと思っています。
　プログラムは「海洋漂着ごみの見学」というテーマで、実際に現場を見たり、対馬グローカル大学の資料を使った講義を受けたり、２泊３日で理論と実践の両方を学べる魅力的なものでした。
西野　新保さんは、「SDGs実践塾」での学びを、次のアクションにつなげるような計画はありますか？
新保　身近なところでは、「環境教育論」や「環境経済学」など環境に関係する授業を受講したり、本を読んだりしています。他にも、過疎地域にも足を運びましたし、街づくりに関係するイベントにも参加しました。
河村　前田剛先生（対馬市未来環境部SDGs戦略課・副参事兼係長。本学卒業生）にご担当いただいている回ですね。授業で聞いただけでなく、実際に現地に足を運んで学びを深め、いろいろなことを感じ、それを持ち帰って次につなげているのは、本当にうれしいことです。学びの好循環の一例ではないでしょうか。
西野　私は、この科目で出会ったメンバーと「越（yue）」という全学共通科目スピンオフの多文化共生活動チームを作りました。設立メンバーは学部生２名と立教セカンドステージ大学の学生３名です。このチームの最大の特徴は、世代や学年、性別、趣味嗜好、国籍など、社会のあらゆる枠を越えて、フラットにつながり合うプラットフォームであることです。

西野 裕代さん

　今日は、国や宗教をテーマにした活動事例を簡単に説明します。一つは、中国をテーマにした展開例です。大学内で開催されたカーボンニュートラルのイベントで知り合った中国人留学生と共に、「池袋ガチ中華ツアー」や「中国家庭料理教室」を開催し、意外と知らない身近な中国を学んでいます。
　また、日本に増加しているイスラム教徒の方々とどのように共生していくべきか学ぼうという取り組みも行っています。勉強会の開催や、大塚にあるモスクのラマダン礼拝に参加し食事を振る舞っていただくなど、在日ムスリムの方々との交流を深め、池袋での炊き出しのお手伝い等の展開につながっています。
河村　大学の授業が終わって、もうそれでさようなら、次につながりませんではなく、授業が一つのきっかけになり、世代や国を超えてフラットな関係でプラットフォームを作り、活動を続けておられる。こうした主体的な取り組みは、この授業が目指しているところでもあるので、これも大変うれしいですね。

2. 全学共通科目全般について

全学共通科目において、履修の決め手になるものは？

河村　ここからは、全学共通科目全体について伺っていきます。「SDGs×AI×経済×法」に限らず、全学共通科目を選ぶ際の決め手はどのあたりでしょうか。
西野　当然、興味関心のあるジャンルをピックアップします。その時に、この科目のようにキャッチーなタイトルが付いていると、目が向くことはありますね。あとは、私の場合、シラバスだけでは判断しにくかったので、前年度に履修した方のお話を聞きました。それがとても大きかったです。
河村　西野さんとしては、口コミが一番ですか？
西野　口コミが一番ですね。「この人が言うんだったら」という口コミです。
安西　私にとって全学共通科目は、視野を広げてくれる新しい学びの場です。私はビジネスを専攻しているので、マーケティングやビジネスコミュニケーションなどを学んでいますが、それとは全く関係のないことを学べるのが、全学共通科目だと思っています。

安西 杏美さん

　大学を卒業して就職すると、一つの職種でずっとやっていくことになるので、学生時代がいろいろ見られる最後の時期です。この「SDGs×AI×経済×法」も、SDGs以外はこの先触れることがなさそうなので、そこが履修の決め手になりました。
新保　やはり興味関心は一番にあります。あとは、全学共通科目の中でも立教GLPの話になるのですが、立教GLPは、社会人基礎力を身に付ける要素が大きいと思っています。普段の授業では扱われない、教えてもらえないことが学べそうなのも選択の決め手になっています。

河村　「普段の授業では学べないもの」というのは、どのようなものですか？
新保　例えば、「立教GLP」では、自分ならではの実践的なリーダーシップを発見・習得したり、自身の強みや弱みを客観的に把握したりすることができます。これらは、就職活動や社会人生活を通じて身に付けることも可能だと思いますが、学生時代の早い段階から意識的に取り組むことで今後の人生で大きな力になると思います。

学部専門科目と全学共通科目の違いや相互関係

河村　続いて、「学部専門科目と全学共通科目の違いや相互関係について」です。今までのお話と関連する部分はあると思いますが、いかがですか？
安西　これまで履修した全学共通科目は、先生が三味線を持ってきたり、琴を教えてくれたりして、とてもユニークな授業が多いと感じています。
新保　私の場合、学部専門科目は“ザ・歴史”なので、多くは過去のことについて学んでいます。それに対して全学共通科目は未来に向けて学べることもたくさんあり、学びの時間軸が違うと思っています。すでに履修した「キャリアデザイン」「SDGs×AI×経済×法」、現在履修している「コミュニティをデザインする」などは、現代の社会問題に関するものですし、今後のキャリア形成に役立つという意味でも、未来を見据えた学びといえます。
西野　学部の専門科目は、自分が興味のある分野を極めていく環境で、全学共通科目は、自分と異なる分野の人の思考や意見に触れ、視野をどんどん広げていける環境だと感じました。そして、視野を広げることは、回り回って自分の専門分野における発想や学びの広がりにもつながると思います。
河村　私は、全ての学部学生のリアクションペーパーを読みますが、それぞれの学部の特色が出ているんですよね。これは学びの成果であると思うと同時に、一つの学部だけで学んでいると、同じような発想になってしまう恐れもあるのかもしれません。西野さんのお話を聞いて、全学共通科目で違う学部の人と一緒のグループで学び、対話することで、「こんな考え方や学びもあるんだ」と視野を広げていくのは、本当に重要な機会であり、大切なことなのだと改めて思います。

新保 諒眞さん

全学共通科目の魅力と課題

河村　次は、「全学共通科目の魅力と課題」についてです。魅力に関しては、今までのお話と重なると思いますので、最後に「そうは言いつつ、このような課題があるのでは？」というものをお話しください。
西野　「そうは言いつつ」の部分では、学生側と先生側の二つがあると思っています。
　一つ目は学生側の課題で、先ほど申し上げた、ただ参加するのではなく、一歩踏み出すことです。意見を言う、手を挙げる、隣の人に話しかけてみるなど、それらを経験するチャンスだと認識して、授業に挑むことが重要だと思います。
　二つ目が先生側です。「SDGs×AI×経済×法」は、先生方が異世代共学というものを、しっかり理解されていると感じました。中には、異世代共学を十分に活用できていない授業もあったように感じ、もったいなく思いました。
安西　全学共通科目の課題としては、集中している学生と集中していない学生の差がとても大きいと感じています。でも、動画が出てきたりするとみんな顔を上げるので、ディスカッションを多めにしたり、意見を求めたりされると集中力が続くと思います。それらを通して、全学共通科目の授業がどれほど大切か、もっと多くの人に分かってもらえるといいですよね。
新保　魅力に関しては、先ほどと重なるところもありますが、三つお伝えします。一つ目が、自分の興味に応じて幅広い分野が選べること。二つ目が、他学部・他学科、他世代の人と学べる貴重な機会があること。これについては、学部専門科目と違い、いろいろな学部の人が集まるからこそ、自分から行動できる人なら、いろいろな人とつながるチャンスがいくらでもあるところがすごく良いと思っています。今でも仲良くしている友達ができたのも、全学共通科目のおかげです。そして三つ目が、いろいろなジャンルの授業を履修できることです。

全学共通科目を一言で表すと？

河村　最後に「全学共通科目を一言で表すと？」です。
新保　「学びの宝庫」ではないでしょうか。所属する学部の専門科目だけでは得られない知識を、後から自由に補ったり、関心に応じて付け足したりできる点が魅力です。例えば、史学科の授業では主に歴史に焦点が当てられますが、全学共通科目では、社会学や経済学など歴史と隣接する学問領域も幅広く用意されています。こうした多角的な学びを通じて、一つの歴史的事象を異なる視点から捉えることができ、より深い理解へとつながります。また、専門分野に限らず、自分の興味に沿って幅広い分野を学べるという点でも、多くの学びが詰まった「学びの宝庫」だと感じています。
西野　私は「サラダボウル」だと思っています。多様な人がいるからこそ、目の向け方や行動一つで新しいものが生まれるところが、まさに「サラダボウル」だな、と。
安西　みんなセンス良すぎて……「百人一首」にしておきます。
河村　その心は？
安西　いろいろな人と、いろいろな学びがあるからです。
河村　それぞれが、それぞれの歌をもっていて、それが集まって「百人一首」という一つの形になる、そんなイメージでしょうか？
安西　私の伝えたかったことをまとめてくださり、ありがとうございます。
河村　本日の座談会は、以上です。皆さんからいただいた感想や意見などを参考にして、全学共通科目を一層魅力あるものにしていければと思います。

2025年度　全学共通カリキュラム運営センター　名簿

2025年6月現在

全カリ委員会

役職名	氏　名	所　属		
部　長	井川 充雄	社	メ社	
副部長	森本 正和	理	化	
チームリーダー	森平 崇文	外国語教育研究センター		言語チーム
	河村 賢治	法	法	総合チーム
運営センター委員	加藤 磨珠枝	文	キ	文学部長
	池田 毅	済	済	経済学部長
	山田 康之	理	生	理学部長
	砂川 浩慶	社	メ社	社会学部長
	原田 久	法	政	法学部長
	松村 公明	観	交	観光学部長
	木下 武徳	福	政	コミュニティ福祉学部長
	廣瀬 文乃	営	国	経営学部長
	篠崎 誠	現	映	現代心理学部長
	森 聡美	異	異	異文化コミュニケーション学部長
	加藤 晴康	ス	ス	スポーツウエルネス学部長
	佐々木 正徳	外国語教育研究センター		外国語教育センター長
	新田 啓子	文	英	教務部長

言語系科目構想・運営チーム

役職名	氏　名	所　属	担　当
リーダー	森平 崇文	外国語教育研究センター	
メンバー	三島 雅一		英語
	牛山 さおり		ドイツ語
	河野 美奈子		フランス語
	泉水 浩隆		スペイン語
	森平 崇文*1		中国語
	金 恩愛		朝鮮語
	松本 旬子		ロシア語
	松本 旬子		諸言語

*1　言語チームリーダーとの兼務

言語教育研究室

研究室名		氏　名	所　属
英語	主任	三島 雅一	外国語教育研究センター
		シュロスブリー 美樹	
		マッキロイ タラ	
		上野 育子	
		町 沙恵子	
		モリス サミュエル	
		アスクィス スティーブン	
ドイツ語	主任	牛山 さおり	
		坂本 真一	
フランス語	主任	河野 美奈子	
		関 未玲	
スペイン語	主任	泉水 浩隆	
		松本 旬子	
中国語	主任	森平 崇文	
		南雲 大悟	
朝鮮語	主任	金 恩愛	
		佐々木 正徳	
ロシア語	主任	松本 旬子	
諸言語	主任	松本 旬子	

総合系科目構想・運営チーム

役職名	氏　名	所　属		担　当
リーダー	河村 賢治	法	法	
メンバー	四日市 康博	文	史	人文学
	田口 真	理	物	自然科学
	湊 照宏	済	済	社会科学
	大山 載吉	現	映	社会科学
	奇二 正彦	ス	ス	スポーツ人間科学

全カリサポーター

	氏　名	所　属		グループ*2
学部選出	平井 吾門	文	文(日)	人文学系
	一ノ瀬 大輔	済	政	社会科学系
	原田 知広	理	物	自然科学系
	井手口 彰典	社	メ社	社会科学系
	島村 暁代	法	国ビ	社会科学系
	細田 雅洋	営	営	社会科学系
	中田 達也	異	異	人文学系
	西川 亮	観	観	社会科学系
	掛川 直之	福	福	社会科学系
	山田 哲子	現	心	人文学系
	石井 秀幸	ス	ス	スポーツ人間科学系
	大久保 奈弥	環	環	自然科学系
総長任命	佐々木 正徳	外国語教育研究センター		社会科学系

*2　サポートグループ
- 人文学系サポートグループ
- 社会科学系サポートグループ
- 自然科学系サポートグループ
- スポーツ人間科学系サポートグループ

全カリニュースレター　No.60
発　行　2025.7.25
発行人　井川 充雄
編集人　河村 賢治、マッキロイ タラ
発行所　立教大学 全学共通カリキュラム運営センター